

家族生活 (1984)

LA VIE DE FAMILLE

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 フランス

色彩 Color

時間 98分

初公開日 1990/07/13

公開情報 につかつ

【解説】

一頃のちょっとしたドワイヨン・ブームに乗って公開となった、彼の仕事の中でも最も沈痛なものをそのラストには感じさせる作品だが、当時流行と言っても良かったビデオ映像を駆使し語り口は軽やかである。彼は“LA FILLE PRODIGUE”（「放蕩娘」として'80年に特別上映）と「堅物女」（未公開）の間の“父と娘”三部作の一本と本作を位置づけている。エマニュエルは南仏に妻マラ（ベルト）とその連れ娘のナターシャ（ビノシュ。まだ若い！）と住んでいる。既に大人になりかけの娘の存在はいつも夫婦を困らせる。些細なことからの喧嘩で家を飛び出すナターシャ……。エマニュエルはふと思うところあって、先妻のリリの元にいる実の娘エリーズを連れ出し、車で旅に出る。久々の対面の娘とコミュニケーションを円滑に画るため、シナリオを彼女に考えさせ、彼がビデオカメラでそれを撮ることにする。途中ナターシャを家出先から家に帰した後、二人はスペインにゴヤの絵を観に行くことにするが、その日プラド美術館は休みだった。泊まったホテルで父は娘に提案を出す。部屋に娘一人置いて、カメラの前で思いのたけを告白させようというのだ。泣きじゃくる彼女が語り始める真実……。父にS・フレイ、娘に脚本のジャン・フランソワの娘マラ・ゴイエ。ナイーブな彼女が父に語って聞かせる“物語”が微妙に父娘の関係を照らし出していくあたり、ドワイヨン演出の真骨頂と言えよう。ただ、ビデオの使用に関しては（その後、同工異曲がたくさんあるせいもあるが）今観ればあざとさを感じるかも。

【クレジット】

監督	ジャック・ドワイヨン	Jacques Doillon
製作	シャルル・ブラバン ジャン・シャル・ルプティ	Charles Brabant
脚本	ジャック・ドワイヨン ジャン＝フランソワ・ゴイエ	Jacques Doillon Jean-Francois Goyet
撮影	ミッシェル・カール ジャック・モンジュ	
出演	サミー・フレイ マラ・ゴイエ ジュリエット・ビノシュ ジュリエット・ベルト シモン・ド・ラ・ブロス	Sami Frey Juliette Binoche Juliet Berto